

これもまたいつごろからか社内や学会のプレゼンテーションの場で気になりはじめた。

前回（IHI 技報 Vol. 53, No. 2 pp. 26 - 27）本欄で「…になります」について書いた。発刊後何人かの方から共感のメールをいただいたが、社内で日ごろ聴くプレゼンテーションのなかで「…です」であって欲しい「…になります」は全然減っていないようにも思う。しかし、懲りずにもう一度、気になる言葉遣いを取り上げたい。

1996年のアトランタオリンピックでマラソンランナー有森裕子さんが銅メダルを獲得したときのことである。レース直後のインタビューで有森さんは、

「初めて自分で自分をほめたいと思います」と語った、ということが随分話題になった。このシーンは今でも取り上げられることがある。話題になったというのは二つの意味でであった。一つはもちろんこの言葉に感動したというものだったが、もう一つはちょっとややこしい。このときの有森さんの言葉のある新聞が

「自分をほめてあげたい」と伝えた。そのため、この「自分をほめてあげる」

という言葉遣いについて火の手が上がったのである。

「ペットに餌をあげる」のも、「（自分の）赤ん坊にミルクをあげる」のもいけない、と言われたものである。ペットには「餌をやる」のである。そううるさく言われたのはいつごろまでだったのだろう。とにかく20年ほど前には、このことで火の手が上がった。

有森さんは「自分をほめたい」と言ったのに「自分をほめてあげる」とわざわざ直して書いた新聞もあった。ちょうど境目がこのころだったのかもしれない。このような事情で有森さんは、ご本人には何の非もなかったのに随分責められたように思う。

2014年、卓球の石川佳純選手がある大会で中国選手を相手に窮地からの大逆転勝利を収めた後、

「中国選手を相手に粘った自分をほめてあげたい」と語ったという記事が新聞のスポーツ欄にあった。石川選

誰にあげる？

技術開発本部 浜本 章



手が「ほめてあげたい」と言ったのか、有森さんのときのように石川選手は「ほめたい」と言ったけれども記者が「ほめてあげたい」に直したのかは分からない。いずれにしても、今や新聞記者にも約20年前のエピソードの記憶はなく、また騒ぎにもならなかった。オリンピックの銅メダルと卓球の一国際大会では場面が違うので比べるのは無理があるかもしれないが、

以上は前置きで、ここからが本論である。プレゼンテーションの場で

「これを2倍してあげると」とか、

「この温度を上げてあげると」

という言葉遣いが聞かれるようになった。いつごろからかは分からない。今や

「自分をほめてあげる」

は目くじらを立てるようなことではないようではある。しかし、物に「してあげる」のと、自分に「してあげる」のとでは程度がかなり違うとも思う。

この「…してあげる」に関連してある記憶がよみがえってきた。40年以上も前のこと、大学に入って受けた数学の講義で教官が

「こいつを積分してやると」

というような言葉遣いをしていたのである。大学の先生はこんな言葉遣いをするのか、と当時思っていたのだった。その後専門に進んでからもその言葉遣いをする教官がいた。この言葉遣い「…してやると」の「やる」では粗野に聞こえるので「…してあげると」になったものだろう。ただし、もともとここは「…すると」で済むところなので、プレゼンテーションのなかで「…してやると」とか「…してあげると」という表現を頻繁に聞くわけではない。使う人は限られているように思うので、わざわざ「…してやると」とか「…してあげると」を使うのは個人の癖のようなものだろう。話は違うが「趣味の園芸」というテレビ番組では、

「たっぷり水をやってください」

と言っている。

前回の「…になります」にしても今回の「…あげると」にしてもちょっと厄介なのは、多くの場合言っている本人がそういう言葉遣いをしているということに気が付いていないということである。こんな例がある。以前、私のそばの席で仕事をしていた若手がよく電話で



「もしもし、あのですねー」

と言ってから用件に入っていた。そこで、あるときそのことを指摘すると

「そんなこと言ってませんよー」

と答えたがしばらく経って掛けた電話で思わず

「もしもし、あのですねー」

そして私の方を見て

「すみません、言っていました」と。

話し言葉と違って書き言葉では証拠が残るので素直に認めもらえる。最近よくみられる誤用に

「…していただけますようお願い致します」

がある。ここは

「…していただけますよう…」

なのだが、多分

「…していただけますか」

との混同なのだろう。これをメールや書類で目にするとうい指摘してしまう。そのため、

「けをきにする浜本さん」

と呼ぶ人がいる。頭髪の色にも量にも問題を抱える私のことを。